

令和 7 年度の市の取組みについて

目次

1. 保健福祉部

- (1) 子ども政策課…………… 1 ページ
- (2) 子ども家庭課…………… 2 ページ
- (3) 介護・障害福祉課…………… 3～4 ページ

2. 教育委員会事務局

- (1) 教育総務課 …………… 5～7 ページ
- (2) 生涯学習課 …………… 8～14 ページ

令和7年度 子ども政策課の主な取り組み

1. 【重点事業】こども計画等策定事業

- (1) (仮)多賀城市子ども計画を策定するにあたり、課題把握等のための調査を実施
- ・こども・若者調査（対象：18～39歳）
 - ・生活実態調査（対象：0歳～16歳の保護者、中学生～16歳）
- ※令和7年度に調査を実施し、令和8年度に計画を策定（計画期間：令和9年度から）

2. 【重点事業】公立保育所再編事業

- (1) 八幡保育所大規模改修発掘調査に伴う既存施設(屋外遊具)撤去
- (2) 今後のスケジュール
- ・令和7年度 八幡保育所発掘調査業務
 - ・令和8年度 八幡保育所大規模改修工事(志引保育所へ一時統合)
 - ・令和9年度 八幡保育所開所(志引保育所を廃止)

3. 【重点事業】保育士確保支援事業(継続)

- (1) 保育士宿舍借上げ支援事業費補助金
- 民間保育施設の寮を利用する保育士の家賃等支払いを支援
- 令和7年度から新規対象保育士への支援内容を拡充(最長5年間の家賃補助)

4. 教育・保育施設等整備推進事業

- (1) 私立幼稚園の認定こども園移行に伴う施設整備(創設)への補助
- (2) 認可保育所(2施設)の施設老朽化に伴う施設整備(大規模修繕)への補助

5. 保育所等物価高騰対策補助事業・保育環境改善事業

- (1) 保育所等物価高騰対策補助事業
- 保育所等への事業運営支援として、食材費及び光熱費の価格上昇分相当額を補助
- (2) 保育環境改善補助事業
- 保育計画・記録、登園等の管理、保護者との連絡等、保育所等の業務のICT化等を行うためのシステム導入に係る経費を補助

ヤングケアラー支援について

令和6年6月に、ヤングケアラーへの支援を一層強化するため、子ども・若者育成支援推進法等が改正され、ヤングケアラーを関係機関等が各種支援に努めるべき対象として法律上明記されました。

本市ではヤングケアラーの実態調査を行い、疑いのある子を含めてヤングケアラーの把握に努め、適切な支援に結び付けられるよう支援を実施します。

1 ヤングケアラーについて

子ども・若者育成支援推進法は、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」として、ヤングケアラーを、国・地方公共団体等が各種支援に努めるべき対象としています。



障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

2 支援内容

- ①中学生全員を対象としたヤングケアラー調査を実施
- ②疑いのある子を含めた対象者を抽出し、学校を通して面談を実施
- ③民間の支援メニューを含め、利用可能なサービスを紹介
- ④本人、家族の意思を確認の上、サービスにつなげる。
- ⑤将来は、地域住民等を含めた、ゆるやかな見守りによる継続的な支援体制の構築を目指す。

- 3 多賀城市ヤングケアラー支援事業（実態調査及びコーディネート業務）契約状況
 契約先 特定非営利活動法人アスイク（令和7年度～令和9年度）

関係機関巡回支援について

【内容】

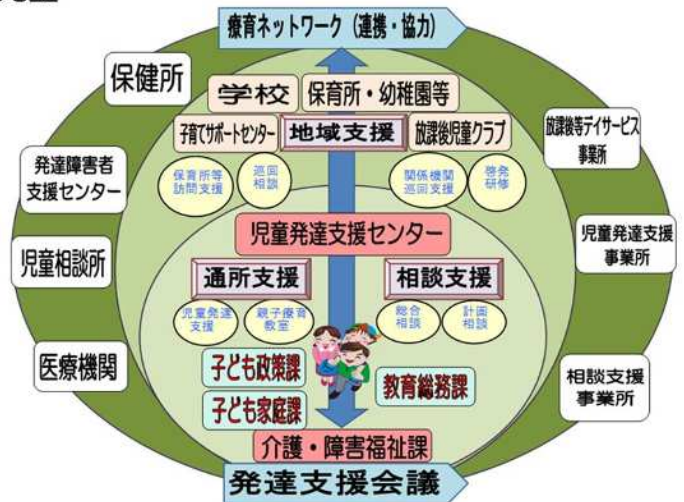
地域全体で子どもたちの育ちを支えていけるよう、児童発達支援センター太陽の家が事業所支援を行う。

【支援対象】

- ①小規模保育施設事業所・事業所内保育事業所
- ②巡回相談対象施設（認可保育所・幼稚園等）
- ③西部児童センター・鶴ヶ谷児童館
- ④放課後児童クラブ
- ⑤障害児通所支援事業所
- ⑥子育てサポートセンター

R6年7月～R7年3月に対象施設へニーズ調査を実施。

【R6年度ニーズ調査】



	対象施設	実施内容	概要
①	小規模保育施設事業所 事業所内保育事業所	アンケート調査 訪問調査（希望施設6ヶ所）	保護者や関係機関との連携に関する相談、 個々の事例相談のニーズ が高い。子ども自身への対応に加えて、 保護者との子どもの状態共有 の難しさを感じている。 保護者の同意が得られないケースについて相談できる機会を求めている。
②	巡回相談対象施設（32ヶ所）		
③	西部児童センター 鶴ヶ谷児童館	アンケート 及び 訪問調査	（児童館・児童センター） 事例検討型の研修へのニーズ が高い。環境整備への助言、保護者へのサポートや気にかけてほしい親子の見極めや視点の持ち方について聞きたい等の意見があり、職員の支援力を高める内容を求めている。 （児童クラブ） 保護者や関係機関との連携に関する相談と 事例検討型の研修へのニーズ が高い。
④	放課後児童クラブ（8ヶ所）		
⑤	障害児通所施設（7ヶ所）	訪問調査	支援技術向上のための 他事業所との交流の機会 や、インクルーシブ推進に向けた取り組みへの支援を求めている。
⑥	子育てサポートセンター	訪問調査	職員対象の 勉強会（研修会）へのニーズ が高い。その他、気になる子への関わりや対応についての相談ニーズも見受けられる。

【R7年度実施予定内容】

	支援対象	支援方法	支援内容
①	小規模保育事業所 事業所内保育事業所	保育相談への 同行	基幹保育所の保育相談に同行し、子どもへの関わり方や保護者や他機関との連携の取り方に悩んでいるケースについて相談を受ける。子どものいる時間の行動観察（1.5時間）とカンファレンス（1時間）を実施する。
②	巡回相談対象施設	連携に関する 相談	保護者や他機関との連携の取り方に悩んでいるケースについて相談を受ける。
⑥	子育てサポートセンター	環境整備への 助言	子どものいる時間の行動観察（1.5時間）とカンファレンス（1時間）を実施する。
③	西部児童センター 鶴ヶ谷児童館	事例検討型の 研修	事例検討を通じて、気になる子どもや発達に障害のある子どもを支援する際の、基本的な視点や支援方法を考えるプロセスを学ぶ。事例検討を通じて職員の知識や技術の向上、職員間連携を助ける。
④	放課後児童クラブ		
⑤	障害児通所施設	事業所交流会 の開催	地域の事業所が一堂に集まり、関係づくりや支援に関する様々な情報交換を行う機会を提供する。
※	上記のうち希望する施設	講話型の研修	施設が開催する研修会等において講師等を派遣することが妥当と認められた場合に講師を派遣する。

令和7年度教育総務課の主な取り組み

1. たがじょう心のケア教育相談事業(令和7年度継続)

子どもたちが抱える問題や課題を早期発見できるように相談体制を確保し、いじめや学校不適応といった問題の解決に向けて各専門家による連携支援を実施

(1) スクールカウンセラーの全校配置

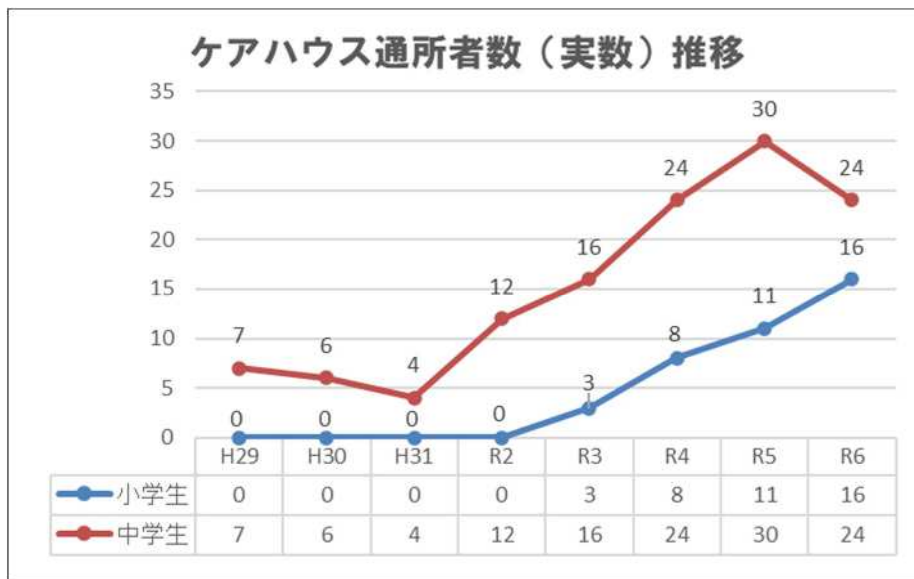
- ・ 県費負担非常勤職員を全校1名ずつ配置
- ・ 各学校にて月3～4回相談日を設定し、児童生徒、保護者及び教職員等が相談可能

(2) スクールソーシャルワーカーの派遣

- ・ 県からの委託契約に基づき、市が直接雇用を行い、各学校の申請に応じて派遣
- ・ 3名任用
- ・ 問題を抱える児童生徒がおかれている環境への働きかけを行い、関係機関等とのネットワークの構築、連携及び調整、学校内におけるチーム体制の構築支援等を行う。

(3) たがじょう子どもの心のケアハウスの運営

- ・ 平成29年度開所し、令和4年度から特定非営利活動法人アスイクへ業務委託
- ・ 通所者数は増加傾向（グラフ「ケアハウス通所者数（実数）推移」参照）



(4) 学校内の別室登校児童生徒への対応支援

普通教室での学習や集団活動に不安を抱えている児童生徒が安心して学ぶことができる校内環境の整備を支援

- ・ 学び支援教室の設置（山王小、城南小、第二中、高崎中）

※県の学び支援教室支援事業を活用して実施しており、本事業により学び支援教室担当教員が加配され、県の学び支援教室コーディネーターからの助言を受けながら対応。市としては教材や参考図書等の購入費用の支援や学生ボランティアを派遣

- ・ その他各校における別室（保健室、空き教室等）

各校の工夫により対応しており、教材や参考図書等の購入費用を支援

2. 地域とともにある学校づくり事業(コミュニティ・スクール)(令和7年度継続)

地域とともにある学校を目指した学校運営協議会の設置・運営(生涯学習課の学校協働活動事業と両輪で推進)

(1) 学校運営協議会の設置(準備含む)対応状況

- ・令和4年度 多賀城八幡小学校、多賀城中学校に準備会設置
- ・令和5年度 多賀城八幡小学校、多賀城中学校に学校運営協議会設置
その他8校に準備会設置
- ・令和6年度 全小中学校に学校運営協議会設置済

(2) 自主学習支援の取組

- ・多賀城スコーレ(夏季休業3日間及び冬季休業2日間)の開催
東北学院大学学生ボランティアや地域ボランティア等を活用し、3公民館にて実施

(3) その他、地域と連携した活動の推進

- ・地域ぐるみ生徒指導委員会(中学校区単位)に対する補助金支援(1校当たり62,500円)
本委員会は、子ども110番の家とりまとめや防犯マップの作成配布等を実施

3. 学校教育支援事業(令和7年度継続)

児童生徒が夢や希望をもち、充実した学校生活を送ることができるよう、各種支援員の配置や教育支援システムの活用等を行う。

(1) 子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かい支援を行うため、支援員を配置

ア 特別支援教育支援員

小中学校の特別支援学級在籍児童生徒数等に応じて支援員を配置

イ 学習指導支援員

小学校に1名ずつ配置し、個別の学習支援等を行う。

ウ 理科支援員

小学校に1名ずつ配置し、実験等の準備や授業支援を行う。

エ 部活動指導員

中学校の希望に応じて配置

(2) 特別支援教育支援システムの活用推進

主に特別支援教育について、個別の教育支援計画や指導計画の作成、教材や研修動画の活用など、子どもたち一人一人に寄り添った学びの提供を目指すため、各小中学校に教育支援システムを導入

(3) 看護師の配置

医療的ケアを必要とする児童に対し、看護師を配置(小学校1校)

4 部活動地域教育プロジェクト事業(旧:部活動地域移行事業)(令和7年度継続)

少子化の時代にあっても学校部活動が生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術活動となるとともに、教員の長時間勤務の解消を図るため、スポーツ団体、保護者、民間事業者等の協力のもと、地域におけるスポーツ及び文化芸術の環境整備を図るもの

(1) 令和5年度

ア 部活動アンケート調査の実施

対象：生徒、児童（4～6年）、保護者、教職員（中学校）

イ 情報収集及び調査研究

(2) 令和6年度

ア 部活動地域教育プロジェクト検討協議会の設置・会議開催

イ 方向性等をとりまとめ

(3) 令和7年度

ア 部活動地域教育プロジェクト検討協議会の設置・会議開催

イ 個別課題等について検討

ウ 保護者周知

令和6年度 地域とともにある学校づくり事業（地域学校協働活動事業）

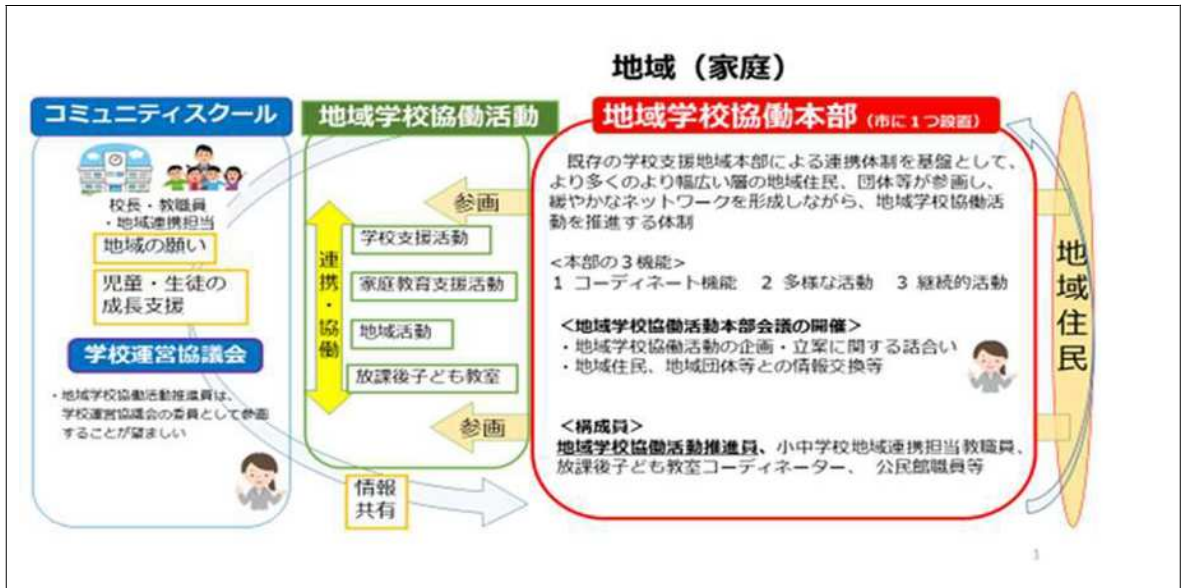
1 地域学校協働本部 ～地域みんなで子どもたちを育てる仕組みづくり～

(1) 目的

地域学校協働活動の推進に向けて、より多くの地域住民等の参画による学校・家庭・地域の連携・協働体制「地域学校協働本部」を組織化し、緩やかなネットワークを形成しながら、児童生徒の健やかな成長を支援する。

(2) 組織

構成員（地域学校協働活動推進員、市内小中学校の教職員、放課後子ども教室コーディネーター、公民館職員等）を中心に、地域と学校が連携・協働して地域全体で子どもたちの成長を支える活動を推進する組織です。



(3) 実績

ア 第1回地域学校協働本部会議（令和6年4月25日実施）

(ア) 内容

- a 第1部
地域学校協働活動事業について
学校支援活動について
- b 第2部
教員のための情報交換

(イ) 参加者（33人）

地域学校協働活動推進員、市内小中学校の地域連携担当の教職員、放課後子ども教室コーディネーター、公民館職員、多賀城市市民活動サポートセンター職員



イ 多賀城市協働教育研修会（令和6年7月25日実施）

(ア) 内容（講演・ワークショップ）

（仮題）

「多賀城市の地域学校協働活動をよりよくするために」

多賀城市社会教育委員

八洲学園大学 教授 水谷 修 氏

(イ) 参加対象者

地域学校協働活動推進員、各小中学校の地域連携担当の教職員、放課後子ども教室コーディネーター、公民館職員



ウ 第2回地域学校協働本部会議（令和7年1月31日実施予定）

2 地域学校協働活動事業

(1) 学校支援活動

ア 目標

児童生徒が生き生きと安全に暮らしていくために、学校・家庭・地域が連携協力し合いながらより良い教育環境を創っていく。

イ 概要

地域連携担当教員は、学校側の窓口となり教員の依頼をまとめる。地域学校協働活動推進員は、地域側の窓口となり地域ボランティアを学校につなぐ。

ウ 過去5年の実績（令和7年3月末現在）

年度	参加ボランティア	主な支援内容
令和2	37人	ミシン補助、書道指導補助、部活動ボランティア 等
令和3	55人	放課後自習補助、裁縫支援、花壇・畑の耕地、読み聞かせ、キャリアセミナー講師 等
令和4	259人	遠足見守り、体力テスト補助、箏指導補助、アンサンブルコンサート、畑の整地、ミシン補助 等
令和5	535人	ミシン・裁縫補助、昔遊び補助、キャリア教育、体力テスト補助、箏指導補助 等
令和6	663人	ミシン・裁縫補助、昔遊び補助、キャリア教育、体力テスト補助、箏・ギター指導補助、遠足見守り等

エ 令和6年度の活動



多中：キャリアセミナー企業紹介



東豊中：着付け体験



多二中：耕作支援



山王小：懇談会時預り



天真小：体力テスト補助



天真小：裁縫支援

(2) 地域活動（地域力向上事業）

ア 目的

災害時に主体的に対応しようとする青少年の育成及び地域防災力の基盤となるコミュニティの醸成を通じた地域教育力の向上を図る。

イ 概要

市内公民館等を会場に防災キャンプ等を実施する。

ウ 実績

			人数		実施した主なプログラム
			小学生	協力者	
中央 公民館	R 3	7/28 (水)	15	おてんきぼうさいラボ 木立芳行氏 他1名	2 台風の風速を様々なもののスピードと比較しクイズ形式で紹介。実験で気圧を目視できたり、子供が面白がって学べる内容
	R 4	8/5 (金)	11	おてんきぼうさいラボ 木立芳行氏 他1名	2 実験で天気の様子と防災に役立つ知識を学ぶ。 防災ランタンの工作を行った。また、防災倉庫の見学を行った。
	R 5	7/29 ~7/30 (日) (1泊2日)	7	地域学校協働活動推進員 2名 大学生 4名 消防署 3名 ジュニアリーダーOB 2名 (公民館職員4名、生涯学習課3名、 地域コミュニティ課2名) 多賀城高校生徒 5名	25 消防署見学 高校生講話と活動 ①防災や災害について講話②段ボールベット作成等 災害食について みんなで作ろうサバめし夏野菜カレー、大根サラダ) 避難所体験 災害備蓄品で朝食 災害時の対応について
	R 6	9/15 (日) ~9/16 (日) (1泊2日)	15	地域学校協働活動推進員 2名 宮城学院女子大学FAS 6名 消防署 10名 ジュニアリーダーOB 4名 bird's-eye 1名 (防災士) わしん倶楽部 1名 (防災士) 多賀城郵便局長 1名 (防災士) 多賀城中生徒 6名 大学生 2名 サボセン 1名 (公民館職員4名、生涯学習課4名)	42 STEPについて学ぶ 消防署見学 防災や災害について遊びから学ぶ・体験する ①オリジナル防災バッグ作成 ②非常持ち出し袋DEビンゴ ③郵便局長講話 災害食について みんなで作ろうサバめし 避難所体験 ①ランタンづくり ②段ボールベット組立て 災害備蓄品で朝食 災害時の対応について
山王地区 公民館	R 3	11/13 (土)	8	おてんきぼうさいラボ 木立芳行氏 他1名	2 ランタンづくり以外にも防災の心構えについての話をいただいた。
	R 4	7/24 (日)	2	市総務部危機管理課職員1名 (公民館職員1名)	2 津波・集中豪雨・多賀城の洪水の話とペットボトルを使った雨量計作り
	R 5				中央公民館と共催
	R 6	11/16 (土)	10	多賀城消防署員 4名 (公民館職員 6名)	10 防災の話・防災訓練 サバ飯作り (火起こし体験、カレーライス、炭、棒パン、焼き芋づくり) 防災グッズづくり (ランタンづくり等)
大代地区 公民館	R 3	8/6 (金)	20	東豊中学校生徒6・J・L (エステバン) 1 コミ協防災協4名 (推進協議会3、防災協1) 教員3名 大学生2名 講師1名 (公民館職員5、生涯学習課6)	40 土囊づくり及び組み方 サバ飯作り (かまどベンチを使用してお湯をつくり、非常食を作る) ロープワーク (様々なロープの結び方やテントづくり)
	R 4	7/29 (金)	9	ENEOS 4名 コミ協防災協 4名 (推進協議会1、防災協3) 教員 6名 大学生4名 (公民館職員3、生涯学習課5) 東豊中生徒 4名	22 ENEOSによる講話、エネルギーや蒸留の仕組み解説 災害用段ボールベッド、テント、トイレ組み立て訓練 まち歩きで地域の高台、避難経路確認
	R 5	7/27 (木) ~7/28 (金) (1泊2日)	7	わしん倶楽部 2名 ENEOS 5名 コミ協防災協 4名 (推進協議会1名、防災協3名) 婦人防火クラブ 4名 大代食改 2名 教員 6名 大学生 2名 (公民館職員6名、生涯学習課3名) 東豊中生徒 7名 多賀城高校生徒 2名	43 高校生によるワークショップ 乾物カレーを作ろう 非常食で朝食 工場見学 (ENEOS株式会社) 避難所設営体験
	R 6	8/7 (水) ~8/8 (木) (1泊2日)	16	講師 危機管理課2名 コミ協防災協 1名 他2名 多賀モリ会 2名 東北浅野防災設備㈱ 1名 大代5区婦人会 6名 サポート 東豊中生徒 6名 地元高校生 1名 その他 教員 4名 (東豊中、東小) 生涯学習課 3名 市の管理栄養士 3名 公民館職員 6名	37 東日本大震災の説明 災害時の過ごし方、避難所の過ごし方 防災トイレ、段ボールベッド組立て 防災謎解き 地域の話 避難誘導訓練・消火器訓練

(3) 家庭教育支援活動

ア 目的

学校・家庭・地域による相互の連携充実が求められる中、その一端を担う家庭での教育の重要性が高まっている。そのため、子育て、食育等に関する家庭教育講座を行うことにより、家庭での教育力の向上を図る（親教育）。

イ 概要

入学説明会や就学時健診等、多くの人が集まる機会を活用し、市内小中学校ごとに家庭教育関連の家庭教育講座等の実施や家庭教育支援チーム等の協力を得ながらの相談活動、親子で参加するイベント等を実施し、家庭教育の一助とする。

ウ これまでの活動

(ア) 家庭教育講座

令和6年度 家庭教育事業 実施報告書一覧

学校名	講座名	講師・職氏名・講座内容	実施日時	参加者数
1 多賀城小学校	保護者向け子育て支援 言葉の力による子育て	フリーアナウンサー 渡辺 祥子 子育て講演会	2月25日(金) 13:00 ~ 14:30	54
2 多賀城東小学校	親子での活動(5学年親子) KDDIスマホ・ケータイ安全教室	(株)KDDI 東北総支社 管理部 栗田 聡, 岩淵 正明 スマートフォン・携帯電話の使用に関する情報モラル	2月10日(月) 10:40 ~ 11:25	119
3 多賀城八幡小学校	親子での活動(4学年親子) キンボールスポーツ	宮城県キンボールスポーツ連盟 平塚真一郎・佐々木佳代 親子でキンボール	11月5日(金) 13:35 ~ 15:05	93
4 多賀城中学校	親子での活動(1学年親子) 親子で一緒に活動(ダンス)	ストリートダンスサークル「BOOM SENDAI」 代表 TARO先生(木村慎太郎) 「ダンスでコミュニケーション」	11月21日(木) 13:30 ~ 15:30	187
5 第二中学校	親子向け(2学年親子) 性教育に関する講話	宮城県助産師会 助産師・看護師 新沼 映子氏 ・思春期のからだ ・命の誕生 ・思春期のこころ ・人との付き合い方	11月12日(火) 14:05 ~ 14:50	158
6 東豊中学校	保護者向け(市P連セミナー) ・子どもの幸福度世界一のオランダに学ぶ ～コーチングを取り入れた関わりで育むこれからの子育て～	コーチング研修会社ドリームフィールド 阿部 侑生氏 ・日本とオランダの教育の考え方の違い ・コーチングの実際 ・ワークショップ	10月19日(土) 9:50 ~ 11:30	180
合 計				791

(イ) 家庭教育支援事業「あんだんてカフェ」

- 令和6年11月2日(土)天真小まつりにて
宮城県家庭教育支援チーム「あんだんて」の協力で、
保護者・教員の学びやつながりを目的に実施
参加者は、50名



(4) 放課後子ども教室

ア 目的

放課後や週末等に小学校の教室や体育館等を活用し、児童生徒の安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画による交流活動等の取組を通して、児童が地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

イ 概要

市内6小学校において余裕教室等を活用し、地域住民の参画を得ながら小学生全学年を対象に放課後や休日の安心安全な居場所づくりを行っている。

活動は、授業終了後から午後4時30分まで、自主学习や体験活動、スポーツ活動等のほか、休日及び長期休業日にはイベント等を行う。

ウ 過去5年の実績（令和7年3月末現在）

年度	開催日数	参加児童	参加ボランティア	イベント（主な内容）
令和2	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止			
令和3	54回	840人	404人	勾玉づくり、水遊び、段ボール工作 等
令和4	120回	1,455人	835人	マグネットづくり、段ボール工作、クリスマス工作 等
令和5	216回	5,301人	1,707人	クリスマス会、スノードームづくり、球技大会 等
令和6	208回	5,577人	1,834人	お米づくり体験、ニュースポーツ体験 等

エ 放課後子ども教室登録者数（令和6年度）

	登録児童数（A） （12月末現在）	全校児童数（B） （12月末現在）	登録率 （A/B）
多賀城小学校	138人	657人	21.0
多賀城東小学校	49人	485人	10.1
山王小学校	164人	840人	19.5
天真小学校	90人	407人	22.1
城南小学校	202人	668人	30.2
多賀城八幡小学校	75人	275人	27.2
合計	718人	3,332人	21.5

オ 活動の様子（令和6年度）



多小：宿題見守り



天真小：プラバンづくり



八幡小：七夕飾りづくり



東小：コマ対戦
協力：大代地区公民館



城南小：縄跳び
協力：多賀城市民スポーツクラブ



山王小：お米づくり体験
（田植え体験）

カ 防災の担い手づくり（多賀城市わくわく広場6校合同企画）

「わくわく防災フェスティバル2024～防災脱出ゲーム～」

(ア) 目的

震災から10年以上が経過し、今後は震災の教訓を後世に語り継いでいくことが重要である。本市の未来を切り開く人材を育成するためにも、震災の伝承と関心を高めることを目的とする。

(イ) 内容

参加者はグループに分かれ、ブース毎に防災学習を行い、最後に学習の成果をアウトプットすることでクリアできる脱出ゲームに臨む。

(ウ) 開催期日 令和6年11月3日（日）午前9時45分から午後0時45分

(エ) 場所 さんみらい多賀城イベントプラザ STEP

(オ) 参加者数 参加児童52名

(カ) 協力団体 ・ハウス食品 ・日本公衆電話会 ・宮城学院女子大学 FAS

(キ) 日程・内容

時程	次第	内容
8:00	スタッフ集合	○打合せ・準備
9:15 9:45	受付	○名簿チェック ○名札配付
9:45 10:00	開会行事	○挨拶 ○ルール説明等
10:00 12:00	防災学習	○全体進行：多小 ○段ボールベッド体験：東小 ○備蓄品試食：山王 ○公衆電話体験：天真 ○土のうづくり体験：城南
12:00 12:15	閉会行事	○挨拶 ○諸連絡
12:15 12:45	脱出ゲーム	○ゲームクリア者にお土産渡す
13:30	スタッフ解散	○片付け・打合せ

(ク) 活動の様子（別添アンケート結果・写真参照）

参加した子どもたちに、5か所のブースで体験活動を提供することができた。各ブースの活動も時間的に余裕をもってでき、各スタッフの準備・リハーサルがとても良かったことが伺える。また、子どもたちにとって、グループ内で異学年交流、地域の大人との交流、防災体験活動ができた。防災・減災学習を楽しくでき、震災についても関心を高めることができたことにより目的は達成できたと考える。多くのスタッフから、各わくわく広場での活動だけでなく、他のわくわく広場スタッフとの連携・協力の活動があり、横のつながりも深めることができた、と感想があった。

また、宮城県教育委員会生涯学習課の小泉先生と伊深氏から、各ブースで体験しながら防災について学び、脱出ゲームで楽しみながら各ブースの復習ができる流れはとても良かった、と話をいただいた。



【事前打合せ】



【リハーサル】



【受付】



【開会式】



【備蓄倉庫見学】



【宮城学院女子大学 FAS 案内】



【備蓄品試食】



【ダンボールベッド】



【公衆電話 講義】



【公衆電話 体験】



【土のうづくり】



【防災脱出ゲーム】



【集合写真】